

## (4) 地域の世間話の調査

※職場で働いている休みのときお茶のみで親しい人達が店さき、居呑酒屋での話等。又地域の人々の集会のときの話やそのときの状態等に関する調査。

### (A) 調査の目的

人々の生活の底に深く沈んでおつて質問紙や面接調査等の調査によつても、あらわれてこないか、或はあらわれても、その一角だけしか示さないと思われるような地域の人々の生活の課題を、できる限り深く掘り下げて明らかにしようとしてこれを行った。

### (B) 調査期間 昭和23年9月～昭和28年8月

### (C) 調査方法

- ・調査に当つては、ときには全く部外者として、ときには話題の中に入りながら、上記のような場における話や状態を記録し、職業別・年齢別・暮しの程度・社会的地位等に整理分類し検討を加えた。

### (E) 調査結果の整理

(a) 調査の結果は、ききとつた話しの数 58話を与論調査Ⅰ或はⅡの分類項目と同様、五つの領域にわけて整理して問題を明らかにした。

(b) 紙数の関係から調査結果の数例を記載するにとどめた。

(F) この調査は地域にある生活の課題を、より多く引き出そうという考にもとづいて行われたものであり、ともすれば「暗い面だけが強調されている。」と考えられるような点もないわけではないが、これは特にそうした問題を明らかにしようとした結果 そうなつたのであつて、もともとすべてがそうであるというわけではなく、そういうこともあるということなのである。今後より多くの人々の話しをきいて、若しゆがみがあつたらこれを訂正しなければならぬのではないかと考えている。

## 生産・消費

### A不景気

H・I (57男 食品製造業 生活程度中、家族7人使用人3人)

L・E (42男 店をもちつつ行商する。生活程度中)

S・I (70女 無職)

H・I 「こんな景気が悪くはお話になりませんや、どこで話を聞いても不景気の話ばかりだ。

L・Eさんなんかは在廻りだからいいでしょうねえ」

L・E 「いや、どうしてどうして、在だつてひびきますよ。機屋の勘定が悪ければ、第一賃機が火が消えたようになるし、そうでなくても、町が悪ければ町の人達が生活をぎりつめてくる。野菜だつて10円買うところは5円で間に合わせるつてわけで自然安くなる。そうすれば農家も金はいらないから、よんど必要に迫られなければ買わなくなつて、それが私どもへも大きく響いてきますよ。」

H・I 「この間の交換会では随分安いのが出たんですつてねえ。」

L・E 「そうです。売れが悪いから皆すぐ現金になれば損をしたつてかまわずに皆出すからですよ。品がはげないから次の仕入れができないので、みすみす損をすることが見えていながら、たたいてしまうんです。」

S・I 「K.Sなんか去年の今までは、いそがしくてしようがなかつたのに今年からはらつき暇らしいねえ。」

L. E この間あそこのうちに入ってきた荷物を積んだトラックも、あれは返品のトラックで東京の間屋が金がないので小便にしたのだそうだ。このごろは全くひどいからな……。まあ自分でも売れないから仕方がないでしょうけれども、正月ごろのを今になって返して来るんだからあきれてしまいますよ。加工ぎずがあるとか色がむらだとか、ひでえもんですよ。」

※このようなことから、我々はこの地域の人達の、経済生活の問題の幾つかを、生々しい生活のごとばの中に知ることができるのではないかと考える。即ち、町の人達と周辺の農村の人達との関係・結びつき・経済界の変動を受けた際の不況の切実な様子、その切抜策の一端等をうかがい知ることができる。

(B) 賃機 (足利の織物生産の中心となっている生産のしくみ)

S. O (60男 行商 生活程度)

C. O (59女 S.O氏の妻)

S. O 「こう景気が悪くなると足利の機屋はいまに皆賃機になってしまうよ。」

O. O 「全くだ。こうやって長く不景気がつづいて更に税金で責められちゃあ、どうにもならなくなっちゃやう。」

S. O 「賃機だってこれから容易ではなくなるよ。機屋の賃機への払いがめつきり悪くなったといつて、どこの在方でもこぼしているから、余程悪いのだよきつと。話によれば何でも、米や野菜をもっているような家へは、できるだけ勘定をまわって貰って、そうでなく、どうしても配給米を買って食わなければならないような家へだけ、①ゴマ塩をやっているんだって話だから機屋も相当苦しいに違いないよ。」

O. O 「一匹織って400円の手間になったときのゴマ塩ならまだいいが、どうも一匹200円そこそこ値下げされて、その上ゴマ塩ちやあ、全く有難くねえな……。」

S. O 「だけどそれがさ、有難いの有難くないのなんて言っではいられないのだからあきれてしまふ。そのゴマ塩だって、どうも有難くないというような顔をしていると「ああそうかい、それちやあ少し待ってくん。他にふらなくちやならないところがあるんだから」と言っで直ぐに引っこめちやあうからな……。」

C. O 「そんなことをされたら、あとでたのまれなければいいだろうに。」

S. O 「それがさ、それでもこの土地では、それで通るからいいと言えはいいし、悪いといえは悪いが、とにかく皆がしょうがないと諦めているんだよ。ゴマ塩をやった当座は少しあの機屋はだめだと言われても、次に景気がでてきて次に賃機に出そうというときに、ほかよりも少し高く出せば、皆怒があるから、そこの仕事を引き受けてするようになるものだからゴマ塩というようなことがいつまでも行われるのさ。」

C. O 「皆がだめだと言っただのまれなければいいだろうに。」

S. O 「それがさあ……皆少しでも金が欲しいから、背に腹はかえられぬってわけさ。」

註 ①ゴマ塩織賃を全部支払わないで赤飯にゴマ塩をふりかけるように僅かづつ支払う。

※苦しいときの賃機状況の一端を知ることができる。しかもこのような賃機が足利の織物生産の過半を占めているのである。賃機という生産のしくみを離れて足利の織物は考えられない。

(C) 職業生活 (夕涼みのときの話)

Y. K (30男 工員 収入一ヶ月手取約8000円 父母弟妹の6人暮し)

K. M (40男 会社員 収入不定なるも 月大体一万円位 家族4人)

Y. K 「昨年の6月ごろでしたが「組合をつくっておいた方がいいんじゃないかい」と言って皆に相談をもちかけたところが、「そうだと作った方がいい」と言うんで作るうとしました。併し、この話が主人の耳に入ったとみえて旦那から「組合を作るなんていい出したのはだれだい。うちの工場のどこにそんな不服があるんだい」と強く言われて 皆たぎげてしまつて組合をつくるのをやめてしまつたんですよ。」

「実際。今度のような ① 会社の整理のときにも、若し組合ができていれば、もっと有利だったんですが、つくつてないからどうにもしようがないんですよ。」

「若し会社にとつても旦那のところでもう少しいろいろな遊びをやめて 生活だつてもう少しきりつめてくれ普通の暮しをしてくれたら、今度のような不景氣にだつて、これまで困らなくてもよかつたんですよ。今度のような整理をしなければならなくなつたのも、仕事がつまづいて不振になつたのではないんだからな……。帳場をあづかつていた奴だつて利益は確かにあがつていたというし、ただもう少し遊びをうちばにしてきりつめてくれれば何とでもなつたものを、それも言うことができないで今度のような始末になつてしまつているんですよ。」

K. M 「そうだねえ」

Y. K 「若しもさ、俺達だつて、困つたときに旦那と一緒に苦勞しようと言つて遊びも我慢して骨を折つてくれれば、たとえ給料が半分になつたつて、不景氣でそうなるのならしかたがないというので我慢しますよ。実際にこの足利にだつて苦しいときには旦那から何分我慢して少しでも出る金をうちばにし、今迄やっていた酒もやめ、家族の人達も自分達のたべる菓子をうちばにしても 使われている人達に出そうというような一ぱいあるのですからねえ。しかもそういうところでは、使われているほうだつて魚心あれば水心つてこともあつて一生懸命やりますよ。それが、うちみたい、いくら困つても自分達の生活を今迄のぜいたくを少しもかえないで、職人に払う給料だけは「一月まつてくれ二月待つてくれ手形がおちないから」では、仕事をするのがいやになつてしまいますよ。」

Y. K 「もっとも組合がつくつてあつても、皆んなの氣持が今のように利己主義に固まつていたのではだめですけれどもねえ。皆んな自分のことと、旦那によく思われようとはばかりして、びくびくばかりしているんですからだめなですよ。何も、少し位にくまれたつて、人手が必要になつて必ず仕事をしてくれないかと言つてくるのにきまつているんだから、そんなに弱くならなくなつていいのに、それができないですよ。今度の、いよいよ首を切られるというときになつてさえ、「この次に仕事ははじまつたら必ずきて貰うからな…」なんて言われると、もう旦那がにくめなくなつてしまうのだから、いやになつてしまう。」

K. M 「でもさあ…、家族があつて、ここで自分が首になつてしまえば配給米も買えなくなることを思うと、つい氣が弱くなつてしまうのじやあーないのかい。」

Y. K 「それもありますねきつと、俺なんかまだ一人ものだから、首になつても何とかできるので好きなことが言えるのかも知れないからね。それに私は家が近所だし、朝晩顔を合わせるものだから、むこうでもあまり不義理もできないし、勝手なこともできないというようなこともあつて割合当りが弱いから、こつちは思い切つたことが言えるのかも知れない。」

註 ①会社の整理昭和7年の不景氣に出合つて約40名程の工具を数名に整理した。

※中小企業のなかに働らく人達の問題と考え方の一つがあらわれている。被使用者同志の考え方、使用者に対する考え方等、こうした考え方がすべての被使用者のもつていられる考え方では

ないにしても、かなりの人達のもっている問題ではないかということが、経営者同志の話(苦しいときにどう切り抜けるか)や他の調査等から考えられる。

#### (D) 職業生活

H・R (27男 染色工 賃金月約7000円)

M・K (32男 公務員 賃金月約14000円)

H・R「心の中では誰だって旦那が無理だということを思っているけど、口に出してそれを言うことができないのです。それというのも、俺達が少し給料を増してもらいたいと思ってあそこではいくらだそうだなってことをいうと、「あいつは、どうも高いの安いのとばかり言っていて好かれないよ。あいつのようなのはどこへ行って嫌われろーな、あんなことを言っていたのでは、この土地では勤まらねえ」といわれて、その上どこかで何とか話ができたときには、すぐにうわさされてレッテルを貼られてしまうから、黙っているんですよ。」

M・K「まるで山椒太夫の焼ゴテみたいなものだねえ。」

H・R「そうなんです。何れ足利なんて狭いから一度そういうことがあると、どこへいってもすぐにわかってしまって嫌われるのですよ。一度金のことで意見が合わず、やめさせられるというようなことでもあつとあとでどこか働くところをさがそうと思つても、旦那方は旦那方で染色屋の集りのようなときに、「〇〇ってのが使ってくれないかと言っているが、あれは前に君のどこにいたそうだが、どうだいあの男は？」というように話がおこり「ああ奴か。奴はいいんだけど、ただ一つ、どうも高いの安いの口が達者だからなー」なんて言われればもうどこだつて使わなくなつてしまいますよ。」

M・K「そういうことがあるのではたまらないなー」

M・K「本当にたまらないですよ。私なんか黙つていられない性分だから随分言いましたよ。そして随分にくまれ、うわさもされましたよ。併し結局は言っちゃあ損だから、黙つてしまいましたよ。このごろじやあーもう言つても損するだけだから言わないことにしているんです」

※被使用者の使用者に対してもっている考え方。特に長いものにはまかれろ的な考え方の生じてくる一つのすじみちが、不安全な素朴な形ではあるが示されているように思う。必ずしも使用者の方で、ここに示されている程まで考えている人達ばかりであるとは考えられないが、そうしたことも使う人の立場や使う人達の話をきいてみて、全くないとはいえないようにも思われる。

#### (E) 経済生活

Y・K (30男 染色工場の工具)さんを中心にした家族の人達の夕食後の話。

友人のGM (20男 鉄道勤務)

Y・K「こちとらは、毎日薬品を配合したり、布を干したりしていながらも、あさましいことばかり話しているんで、いやになつちやうな。「どこちやあーいらくれるの。あそこちやあーいくらだという話だ」など、朝から晩までそんな話だけなんだから。」

「実際考えると本当にいやになつてしまふ。東武へ出ていれば今だつて1万円位はもらえたんだのに、しかもあそこは組合はしつかりしているから首切の心配はまずないし、給料だつて、20才を過ぎれば8,000円はくれるでしょう。それがこつちのように、こうやの職人では、工業(旧制中等学校)を出て七、八年やつて、24,5才になつてやつともらえるように

なるのですからねえ。その上、どこの工場でも、いざ不景気になればすぐに人員整理、それも失業手当なんて殆んどなくて暇をとってくれないか、といわれるのだから、お先まっくらですよ。私のところなんか、この4月までやってみて、どうしてもうまくいかなければ事業を思い切って小さくして、家族だけでやっていくようにするといっているんですからねえ。引導を渡されているみたいなものですよ」

＃ 「C.Mさんなんかいいですねえ——、安定しているから。」

G.M 「いや——、いくら安定していても、私みたいな薄給ではしかたがありませんよ。」

Z.K 「いや——、これからは大きいところの勤人が一番いいですよ。こっちのほうも、どんな安くともいいから、安定しているところに入りたいと思いますねえ——。先のことを考えると全く憂うつになってしまいますよ。いつつぶれてしまうかわからないですからねえ」

Y.K 「全く憂うつだな——、もう少し何とか安定して、貧乏人のことを考えてくれる政党が生まれなくちゃ——だめですね——。今のようでは、何党だってかまわえて気になりますよ。共産党だって民主党だってかまわえて気になってしまうよ。」

### (E) 青年のようす

U. A54女 酒・醤油・味噌等の調味料販売 現在使用人なし（戦前3人程使用していた）生活程度中

M. T機業・内地織物 使用人 織子8人 女中2人 生活程度中の上

#### 醤油を買いに来たの立話し

M. T 「今どき人を使うのは全く大変ですよ。少しつらいとすぐひまをとってしまうし、時間だってもう、本当にきちんきちんとやらなくてはならないし、人を使っている、今では却って御気遣とりながら、使わなければならぬのでこっちが使われているのが使っているのかわかりはしないよ全く。」

U. A 「ほんとにねえ——、このごろの若いものは少し骨が折れると、がまんがなくてすぐにひまをとってしまったり、骨惜しみばかりしていて、それでいて基準法がどうの、給料が安いなんてことばかり言っているんだからねえ」

M. T 「そうですね、だから家なんか他人を使わないで家人数だけでやっていた方がどれ程いかわからないですよ。夜だって10時が12時までやっても、誰からも文句はないし、その他は賃機へでも出した方が何ほいかわからないなんて、いつも話すんですよ」

U. A 「ほんとに人を使うのは容易なことではない。家へくる製造元の小僧だって、酒をトラックで運んで来て、何を言うのかと思ったら「瓶のおっかけたの（壊れたの）はありませんか」って言うから「何するんだね」と言ったら、「な——に途中でかけちやうたってもっていくんですよ。何も余ろく（うまいもうけ）がねえから」って言うから、そんな、うまくおっかけたのはね——ねと言ったら「な——に、どうせおっつけてはみないんだからどんなのだっていいよ」なんて言うんでしょう。わるいにはあきれてしまいます。それというのも、旦那つてのが、けちんぼだから使われている方は、そうでもしなくちやあ面白くねえ——んでしようけれど、そうなんだからね——やんなつちやう。又この間などは一人で充分まにあうのに二人で来て、まだ少し早いけど屋にすべーと言って、弁当をひろげるんでしよう。何かと思ったら、この前来たとき一杯かけて、ドンブリをとってやったら、それに味を占めて、こうなんですからね。しかたがないから又一杯かけて、おかずをとってやったら、あきれちやう。それをやっておかなければ今度は「空びんをもっていっ

てくれ」なんていっても、自分の持ってきた外は決して持っていかないですよ。そして「車が空いているがね」と言っても「他に廻るところがあるから」なんて言ってごまかして積んでいかないですよ。なーにあれば他に廻るところなんてあるのではなくて、途中でほかの商売の荷物を内しよにはこんで自分の手間をかせいでいるのだから、本当にいやになってしまふ。」

※こうした話を通して、最近の、青年だけではないけれども特に青年のなかに強くみとめられるようになってきたところの、骨折りをきらい、たとえどんなに骨が折れても自分の職務はしっかりと果さなければならないのだというような大切な気持ちがうすれてきているということをかぎ知ることができる。

勿論骨折りをきらい、らくをして金になる仕事の方がいいと思う気持ちの強まりに、青年だけの問題ではなく、又要領よくごまかしてうまいことをやろうというのも青年だけのものでなく、そうした傾向のあることについては矢張り考えてみなければならないものがあるであろう

### (G) 苦しい生活

K・F40男 足利へ移ってきて5、6年 石炭販売

M・K60男 染色、生活程度中の下 仕事のあるときは比較的いいが仕事にひまがあるとかなり苦しくなる。

K・K38男 公務員 生活は比較的安定

M,K「こう景気が悪くちやー、もう金が欲しいということ以外に何も考えてはおられないですよ、そこへいくと公務員はいいですね」

K,K「なーにだめさ、同じですよ月末にはもう何も買わずに我慢してはなりませんからねー」

K,F「いやー我慢している位ならいいですよ、こっちの方は夜逃げをしなくちやあーなりませんからね、月末は」——事実K,Fは月末に、妻子だけにして帰って来ないことがしばしばある。

M,K「困ったよ全く、いくら仕事をして、やるだけやって金が貰えないんですものね。〇〇の仕事も、もう三月も前にやった仕事がいまだに勘定して貰えないんだから、弱ったもんですよ。だから染料屋への払いもできはしないし、第一こっちが食っていけなくなっていますよ。この寒いのに誰だつて、金が欲しくて、働らくんだ、その金が貰えないんだから、全くやり切れない。」

K,F「全くねえ、調子がいいから大丈夫かなと思って品を納めると、もうだめなんですからね。まして私なんか得意がまだはつきりしないから困ってしまいますよ」

M,K「いや、しっかりした得意があればいいですけれどもこの土地には、そういう人は少ないからね、この間××の勘定を貰ってきたけれども、あそこもなかなかくれないですよ、あまりくれないから、もうここの仕事はやらないからと言って何とかして貰えなくてはと言った。そしたら、今金はないから、反物でもっていつてくれないかというから、ああ、反物でも何でもいと言って反物をもつて帰ってきて、交換会で現金にたいちやった。そうでもしなけら、配給の米も買えねえものね。」

※苦しい生活実状をかぎ知ることができる。

## H 社会 保障

Z, K 50女 小売業 生活程度中の下

T, O 43女 染色屋の職人 生活程度下 電休日の10時頃お茶のみ会。

Z, K 「〇〇さんところでは昨日松寿園に入院したんだそうだけど、あとが大変ですね」

T, O 「そうねー、でもあそこでは皆保険でやって貰えるんですって。

しかも入院しているうちは食費まで貰えるんですってからいいですね」

Z, K 「へーえ、それじゃすっきりよくなってしまえますね、いいこったなー」

T, O 「××さんのところでもその保険でやって、あんなにすっきりよくなって、今ではもう普通の  
人より働らいていて何でもないようになりましたもの、有難いもんですね。それが、こ  
っちの方はそんなことになったら、医者にもみて貰えないし、諦めめるより外にどうし  
ようもない」 Z, K 「よらば大樹の蔭に言うから、いつとめるなら大きいところへつとめな  
ければうそですよ。」

※社会保障の一つ共済組合制度に対する考えの一端を知ることができる。こうした生活をして  
いる人達は、病気になっても金がないので我慢をし、ときにはもつとよいと思われる療  
法があると思われても金がないために、それができないという人達である。併しここで問  
題にされなければならないこととして、こうしたことを身にしみ感じていながら、国民  
健康保険が行われても月々の僅か（この人達にとっては僅かではないのだけれども）の金  
を払込むことをよろこばないために、それを支持しないという気持ちが、どうして生れてき  
ているかについても考えてみなければならないものがある。

### 1電休日のお茶のみ話

O, V, (62才女 生活程度中 八百屋並びに味噌醤油業)

S, K, (50才女 生活程度下夫は職人) ときおり織女工として工場へいくことあり。

M, I, (38才女 生活程度中 染色屋の職人)

S, K, 「〇〇さんお客さんでもあるんでしょうか」

O, V, 「どうして？」

S, K, 「キツコマンなんか買つていつたからさ」

O, V, 「どうしてあなた、あそこではいつだつてキツコマンですよ。」

土地の醤油はまづいからといつてキツコマンだけしか使わないのですよ。」

S, K, 「へーえ。うちなんかちやー、キツコマンなんてお客さんでもなければ使わないの  
に。」

M, I, 「本当にねえ、扶助を貰いながらぜいたくができるなんて」

O, V, 「本当だよ。売っている人間が、キツコマンなんて使えないのに扶助を受けていな  
がらキツコマンを食べているなんてそんなことだからいつになつても食乏から抜けられ  
られないんだよ。」

S, K, 「本当にこのせつは、扶助を受けている人達が、扶助を受けるのは当然だ、位に考え  
ているから、いやになつてしまう。そして扶助がくると扶助を受けない人達では、明日の  
ことや、子供のことを考えるからともそんなものは食べられないと思われるようなぜい  
たくなものを平気で買つて食べているのだから」

M, I, 「そうよ、扶助がくると「貰つたとき位」といつてもち菓子だのやきそばだの直ぐに買  
つて食つてしまつているんですものねー。とつたかみたかつていうことがあるけれども全  
くあの人はその通りなんだから」

S.K、「大体このごろはこういう人達も悪いが民生委員があのような人達に扶助をくれるという事がまちがっているんだよ民生委員は自分の金をくれるのではないから少し困ったという泣きつかれると役所へ行って申請して貰ってやるから悪いんですよ」

M.I「本当にねえ、扶助を受けない人達の中にもっと一生懸命やっつけてそれでも困っている気の毒な人達が沢山いるのに、ああいう人達がぜいたくをしながら扶助を受けているなんてどうかしているわね」

※ このような話はこれを 生活扶助を受けている人達の言いぶんをあらわしているお茶のみの話のときの身の上話などとひきくらべて考えると その実態がより一層はっきりとしてくる。又受けない人達のこうした話には自分達の生活が苦しいことから扶助を受けている人達のこのようなことが強く気にさわるのであることも考えてみたい。

併し又 生活扶助を受けている人達の心構えの中に 多少にかかわらずこのような非難されなければならないような傾向のあることも事実のように思われる。

## 生活と娯楽

染色工場の工具 A (18才男)

B (32才男)

C (40才男)

他 4・5人

7・8人の職人が染色した糸を張場に干しながらいろいろな話をしていた。

その一つの話。

A「パチンコも熱くなると止められねえもんだよ。前のを取りかえす気になってますます熱くなってしまうってつい500円も1000円も一晩のうちにつこんじやうんだ」

B「だけどお前なんかまだいい方だぜ。〇〇なんか勘定を貰っても一銭も家へはもつていかないんだそうだからな」

C「ああ〇〇ではそうかも知れない。俺がこの間勘定の日一杯やろうと思って〇〇屋へいったらオッカアが〇〇屋に来ていたんだ「何でえー」とたづねたらうちの人がこないかどうかまわっているんだといっていたよ。奴は何でも勘定は皆パチンコにはじいちやうらしいぜ」

B「奴は最近競馬にいかないと思ったらパチンコだどっちにしたって同じことだのにな。ただ一度に使う金が小さいか大きいかで結局は損をってしまうことはみえすいているんだがそれがやめられないんだ」

C「あの寒いのにオッカアのそばで子供が足袋もはかずに寒くてふるえていたで全くしようがねえな」

A「俺ももうこのごろでは、パチンコ屋へいくときは100円以上はもつていことにきめてあるんだ。そうすればいくらにはじきたくなつたってそれ以上はやらねえからな。そうでもしないとだめなもんだよ人間なんて」

※ 生活に追われた人達が一まつの夢をいだいて 自分の心の緊張をときほぐしている間はいいがそれに自分の生活の金までもつぎこむようになっては、いくら「健全娯楽パチンコ」などといつてもパチンコは決して健全娯楽ではなくなってくる。このようなパチンコが榮え一部の人々の上によりひどい悲しみがとおいかぶさっているということも考えてみなければならないと思われる。

以下略



## 自治会のようす。

### 自治会

昭和28年4月20日 ○町第○自治会 会場は町内の集会場

町内概況 戸数 ○戸、足利市としては大きい町内である。

職業は主として 機業並びにその勤人・小商店

町の歴史は新らしく、明治30年頃は未だ殆んど農家であり

戸数なども極めて少なかった。大正初年頃から急速に発展して現在に到る。

大きな工場は少ないが20人位使用した工場がかなり多くある。

会場には火鉢が10ヶ程用意されており、前年度の役員が5・6名集って 座机のところで 米相場や景気の話をしている。定刻10分位前になって 会の進行についてどうするかを話し始める。前会長の原案でそれでいいでしょうという。

定刻が近づくにつれて 二人三人づつ集る。

役員が「どうぞこちらえ」と言うが「ええ結構です ここで」と言つて あがり口のところで座っている。次々に集ってくるが皆入り口に座をとって奥に入らない。役員たちが立ってきて ○○さんどうぞと主だった人を呼ぶ。

よばれた人は 土地に古くからおる人によびかける。役員はもとの席へいく、やがて上り口が一杯になり どうですと言つて皆一せいに移る。

若い青年と豊かそうでない女達が上り口のところに残っている。

多くの人達が景気の悪いこと 交通事故のこと 家の子供の病気のこと、等話題にして話し合っている。「弱りましたなーこう景気が悪くちやあー」

「そうですねー」等。「あそこの通りは全くあぶないんですよ子供など夕方は使に出せない」「あんな狭いところへ大型な車が広いところと同じように走ってくるんですからねえ」

「通らせなくした方がいいんですよ」等

「コンコンせきがはげしくて夜もねむれないんでねえ。はたにおつてもこっちの息がつまってしまうように思います」「ほんとにね、子供の病気は自分でした方が何ほ楽か知れませんか」等

定刻20分を過ぎた頃

座が一杯になり 過半数集つて来た。

前会長等 役員が発言して「どうですかそろそろ始めましょうか」と言つて開会。

皆火鉢をかこんでおつたが向をかえて会議に移る。

前会長 「それではじめたいと思います」

「座長さんを選んで貰いたいと思いますが」…会員沈黙暫し。

「毎年おねがいでして、なんですが前年も○○さんにおねがひしたのでした。今年も又如何かでしょう皆さん」「毎年おねがひしてなんですがー」

そうおねがひしましょう。

そうですねー何か——という声あちこち

「それでは○○さん大変でもおねがひ致します」

仮議長 「どうですか、どうも弱りましたなー、それでは仮議長として、あとの人が選ばれるまでつとめましょう。ではこれから暫らく会の進行をさせていただきます」

会長と代る。

仮議長 「この第○自治会も去る13日会費もとどこおりなく完納致しまして、お蔭様で、決算

の報告書を作りましたが、先日、前組長さんを通じて皆様のところにとどいていると思います。皆様の協力によりまして前年度は16,505円の残金を出すことができ、まあ27年度は大過なく過すことができました。本日は規約によりまして役員の任期は一年となつておりますので皆様の御協議により、役員を改選し、そのあと28年度の予算を遠慮のない御意見を発表していただいて、御審議の程わずらわしいと思います。先ず第一議案の役員の改選ですが一つ役員さんに説明して貰いましょう」

役員〇〇 「まず役員さんの選出ですが、会長をまず選びまして、会長が選ばれば会長の気に入っている人を副会長さんに選んで貰う。つまり女房役を選んで貰うという順序になります。まずその一会長を選ぶのに、どうしますかねえ—

役員で投票によつてやるか。それとも—

役員の中から選こう委員をあげてやるか。どちらにしましょうかねえ」

—暫らく皆沈黙して意見なし—

役員〇〇 「つまり選挙ならば31番までの組長さんに選挙して貰うか選こう委員をあげるならば、31人で相談するのも大変だからこの31人の中から、何人か選んでその人達にきめて貰うというやり方ですね」

会員〇〇 「選挙と言っても、誰がいいのかわからない人も多いからどうです選こう委員をあげてやったら」

「そうだね、その方がいいね」——あちこちで同感を意味したうなづきがあり

会場は少しざわついてくる。「こういうわりの悪いことは、だれもやりたくないからな一代議士連中みたい、うまいことでもあれば、やりてもあるが、誰もいやだよねえこうした役は」というような話が会員の中でなされている。

役員〇〇 「いかがでしょうか」

「異議ありません」一前の方にすわっていた二三人の人達がいう。

役員〇〇 「選こう委員の数ですが、去年は11名でしたが今年は何名にしますか」

「その位でいいんだな—」

「結構でしょうがね。去年も11名でしたら」

「別にどおということはありませんよ」

○会場はあとから入ってきた人で、あがり口が一杯になっている。誰も奥へ入っていくような人はない。狭いのでたてひざのようにして座っている人もある……遠慮して前に出ない。

そこへ、11番組合の人の、一人が入ってくる。「どうも私のような裏長屋にすんでいるものはどうも」と言いながら委任状をもってきて、ポケットから出しながら、「これはどうしたらいいのでしょうか」と入口の人に聞いている。入口の人々もわからないので、顔を見合せている。たずねた本人はますます困った様子である。そのうち誰かがこちらへあづかりましようとおづかる。次々と委任状は手渡しにされて役員まで届く。「どうも私は自動車の運転手をしているものですから明日の連絡をしておこなに遅くなってしまいました」と恐縮しながらすみの方の座につく。……農村の集とこの辺が大いに違う農村部ならば知らない人は殆んどいない。入っていけばすぐに同じ問題で話し合っていて警戒も何も無い。

それがこのような都市では殆んど知らない人達である。その場の雰囲気慣れるまで、かなりの時間がかかる。同業者の組合などの集りとも違う性格をもっている。又、戦前と違って人の移りがはげしく、出てくる人達も変ってきているのがうかがわれる。

○ざわついているうちに5分位を経過しその間に各隣組ごとに選こう委員が役員の間で選ばれる。

役員〇〇によって定められた11名のせんこう委員が発表される。

仮議長 「この方々におねがいして、別室で御審議下さるようお願い致します。」

仮議長 「それではこれから選ぶ委員を発表して貰います」

役員〇〇によって11名の委員が発表。

役員の耳うちによって仮議長は「ではこれから会長を選んで貰うために暫次休けい致します」

—15分程経過—。その間先刻のような雑談がつづけられている。選考委員達が帰ってくるの  
をみて話を止めて急に静かになる。

仮議長 「選考委員の方々の慎重審議の結果、田中さんにもう一年間おねがいしようということになりました」

役員〇〇 「これで会長さんの選任を終ります」

仮議長 「一応これで仮議長の責任が終了しましたのでこれから先は来年度の会長さんにおねがい致します」

新会長〇〇 「不肖私に再度やれと言われましたが、昨年度お引受けしますときにも、ことし限りでという話で引き受けたのですが、又再度やれと言われ御期待に添えるかどうか分かりませんが、今度は本当に一年かぎりの条件で一年だけやらせていただきます。町内自治のために前組長さんや役員さんの協力を仰ぎましてつとめていきたいと思ひます」

—会員の中にも不満もなく、又会長も別によるこぶでもなく、さりとて弱ったというような様子もない。会長は席に座って隣りの旧役員と耳打ち合っていたがやがて。

会長〇〇 「それでは、せんえつですが、これから副会長さんと各部の役員さんをおねがいします」と言つて原案の書いてある用紙をもつて

「副会長さんに〇〇さんと〇〇さんをおねがいします」

—それに引きつづいて体育部・防疫部・社会部・婦人部・青年部の役員を五六名づつ発表。

「以上の方におねがいしたいと思います。ついでこの役員さんによってそれぞれ各部の部長さん、副部長さんを選んでいただきたいと思ひます。どうか集つて一つ相談して下さい」

—めいめいあちこちに集つて5分程できまる。それは副会長から発表された。

会長 「それでは予算の審議に入りたいと思ひます」

副会長から 別紙のような予算の説明があつた。説明はよんでいる途中増減のところを注意してよむ。特に、集会所建設準備金として、現在集會しているこの会場の今後の見通しに立つて、年間8,000円づつ貯蓄し、建設の際に負担が少なくてすむように考へたことを細かく説明した。説明が終り、会長から「何か御意見がありましたら遠慮なくおっしゃつて下さい」という発言があつたが誰もこれと言つて別に発言しない。

昭和28年度 ○町第○町内

収 入 之 部

項 目	前年度決算	予 算	増 減	備 考
自 治 会 費	174,084	171,820	△ 2,264	
雑 収 入	9,710	0	△ 9,910	
27年度繰越金	16,505	16,505	0	
合 計		188,325		

支 出 之 部

項 目	前年度決算	予 算	増 減	備 考
体 育 部	45,444	35,000	△ 10,444	
防 疫 部	16,730	19,000	○ 2,270	
社 会 部	14,265	15,000	○ 735	
婦 人 部	2,730	5,000	○ 2,270	
青 年 部	1,140	5,000	○ 3,860	
共同赤十字募金	25,038	26,200	○ 1,112	
○ 校懇話会費	13,505	13,505	0	
街灯、電球費	21,318	28,000	○ 1,682	
会 議 費	6,515	8,000	○ 1,485	
慶 弔 費	700	1,000	○ 300	
役員慰勞費	8,000	8,000	0	
集会所維持費	11,600	4,800	△ 6,800	
表 彰 費	4,262	3,000	△ 1,262	
治安協力会費	3,820	3,820	0	
筆 墨 費	1,841	2,000	○ 159	
集会所建設準備金	0	8,000	○ 8,000	
雑 費	2,805	3,000	○ 195	
合 計		188,325		

「まあ、結構でしょう」「いいでしょう」などという声があり雑談が多くなる。雑談は「意見と言っても別がない。先に立った人達が定めたんだから間違いないだろう。だれが考えたって同じようなものだ。適当でいいではないか」というようなことをゴソゴソ言っている。

会長 「それでは異議ないものとみとめまして新年度の予算をこの通り決定致します」皆が納得の表情を示す。

「これで、一応予定された議題は皆終了しましたが、この際何か話し合っておくことでもありましたら折角の機会ですからおねがいします」

会長のこの言葉の途中で、突然興奮した調子で、一人「緊急動議があります」と言って立った人がいる。余り皆からも知られてはいない人らしく、皆の顔に一瞬何かといった気持が流れたように思われる。提案は早口であり、勢い込んで言うが別に、勢込む程のこともない問題であった。○町の狭い道路の拡張の件についてであった。

その意見が述べられてから、人々によって又一しきりその道路が狭くてこの前の火災のときなどには自動車ポンプが入れず三台つないで水を送ったとか、向の家をこわして家の中を通して消したとか、それでも難かしいな—又市の計画にのっているんちやあなかななど小人数の間で隔意のない意見がこうかんされている。役員同志も又雑談のようにして、その問題をとりあげて話し合っていたようであったが。やがて会長が立って

会長 「それでは皆さん今の御意見大変結構かと思いますが、どうしますか。予算もかかることですから、市の方へも話し、市の計画にも多分のっているでしょうから、その促進方を皆さんの総意として地元の市会議員さんにもお話しするようにしたいと思います」  
「そうおねがいしましょう」「そうですね—」などの声があつて承認。

外に何かありましたらと言われたが、誰も何も言わず雑談となり、会長から「それではこの辺で終りにしたいと思います。いろいろ有難うございました」という閉会の言葉があつて、解散。

※ このような会合のようすや、そして話し合われている話の内容から、我々は地域の人々の個人生活・社会生活等の課題としての、めいめいのもつ劣等意識や利己主義や権威主義・事大主義等の具体的な姿を把えることができる。権威主義や事大主義といつても、ただ単に「長いものにはまかれろ」というような単なる事大主義ではなく、役員の人達の善意を信頼している大衆のもつ善意「おまかせする」という気持となつてこうした権威主義になつていると思われるのである。

又利己主義とはいつても、すべての人のもつ利己主義がただ「他人をおしのけても生き抜かなければならない」というような、又は「他人の不幸をみてよろこぶ」というような考え方だけではなく、そこには多分に義理と人情とにからんではいるけれども、他人の苦しみを何か自分の幸福と感ちがいしそうな気持になりながらも、負しい者同志としてお互にあわれみ合う善意を素直に感じ合ひ、「一緒に生きよう」という気持にもなつて現れてきていることもみとめなければならぬと思う。

又ときには、高びしやな押付としかとれないような物の言い方をする役員の人々の態度の中にも会議の運営になれないために多くの人達の意見を多く引き出すことができないための態度がみとめられるのである。又人々はこうした役員の人々の気持を察して少し位意に満たないと思われれることにもそれ程に不満を感じることなく賛意を表していると思われれる点が多い。従つてこのような人々の行動もこれだけならばそれ程問題にはならないことなのではないかと思われれる。ただ併し、このような考え方や行動のすじみちが身についてしまつて、自分の利害に直接関係してくるような会議のときにお互に上手に意見を述べ会い妥結点を見出し、定められたことは責任をもつてやり抜くというような態度が作られず、「長いものにはまかれろ」とか「きじもなかずばうたれまい」とか「でるくぎは打たれる」とか言つて、黙つて権威者の意見に従つていて、しかも従いながら要領よく自分の立場をまもるといふような態度がつくられてしまつていふのではないかと思われれるのである。